

令和6年度 母子保健指導者養成研
乳幼児健康診査に関する研修②

発達障害等（診断を問わず）を 抱える母への支援

四天王寺大学看護学部

上野 昌江

内容

- 発達障害とは
- 発達障害の特徴： ASD（自閉スペクトラム症）と ADHD（注意欠陥多動症）を中心に
- 発達障害をもつ母親の育児の困り感
- 発達障害を持つ人の体験の理解
- 援助関係のつくり方
- 支援のポイント
- 援助者の役割

発達障害とは

(e-ヘルスネット：<https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/dictionary/heart/yk-049.html>)

- 脳の機能的な問題が関係して生じる疾患であり、日常生活、社会生活、学業、職業上における機能障害が発達期にみられる状態をいう。
- 本人の怠惰や家族のしつけ・環境などが原因ではなく、基本的に脳の機能の障害からおこる。
- **発達障害者支援法（2016年改正）の定義**：「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であって、その症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるもの

発達障害の診断

DSMIV (1994) → DSMV (2013) とICD-10

吉田友子：発達障害とは. ノーマライゼーション 障害者の福祉, 2014年4月号
<https://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/prdl/jsrd/norma/n393/n393003.html>

DSM-IV (1994年)		DSM-5 (2013年)		ICD-10 (1992年)	
通常、幼児期、小児期、または青年期に初めて診断される障害	精神遅滞	神経発達障害	知的障害	精神遅滞	
	コミュニケーション障害		コミュニケーション障害	心理的発達の障害	会話および言語の特異的発達障害
	広汎性発達障害		自閉症スペクトラム障害		広汎性発達障害
	学習障害		特異的学習障害		学力の特異的発達障害
	運動能力障害		運動障害		運動機能の特異的発達障害
			他の神経発達障害		混合性特異的発達障害
					他の心理的発達の障害
	注意欠如および破壊的行動障害		注意欠如・多動性障害	小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	多動性障害
チック障害	チック障害	チック障害			
幼児期または小児期早期の哺育障害、排泄障害、幼児期・小児期または青年期の他の障害			行為障害、小児期に特異的に発症する情緒障害、小児期および青年期に特異的に発症する社会的機能の障害、など		

DSM-5による発達障害 神経発達障害

- 知的能力障害群（知的障害）
 - コミュニケーション障害群
 - 自閉スペクトラム症／自閉症スペクトラム障害（ASD）
 - 注意欠如・多動症／注意欠如・多動性障害（ADHD）
 - 限局性学習症／限局性学習障害（SLD）
 - 運動症群／運動障害群（発達性協調運動障害、チックなど）
 - 他の神経発達症群／他の神経発達障害群
- 発達期に起源をもつ病態群であり、この障害は、通常発達早期（多くは就学前）に顕在化する
 - この障害は、個人としての機能・社会的な機能・学業あるいは職業機能に障害を生じるような発達の欠如で特徴づけられる

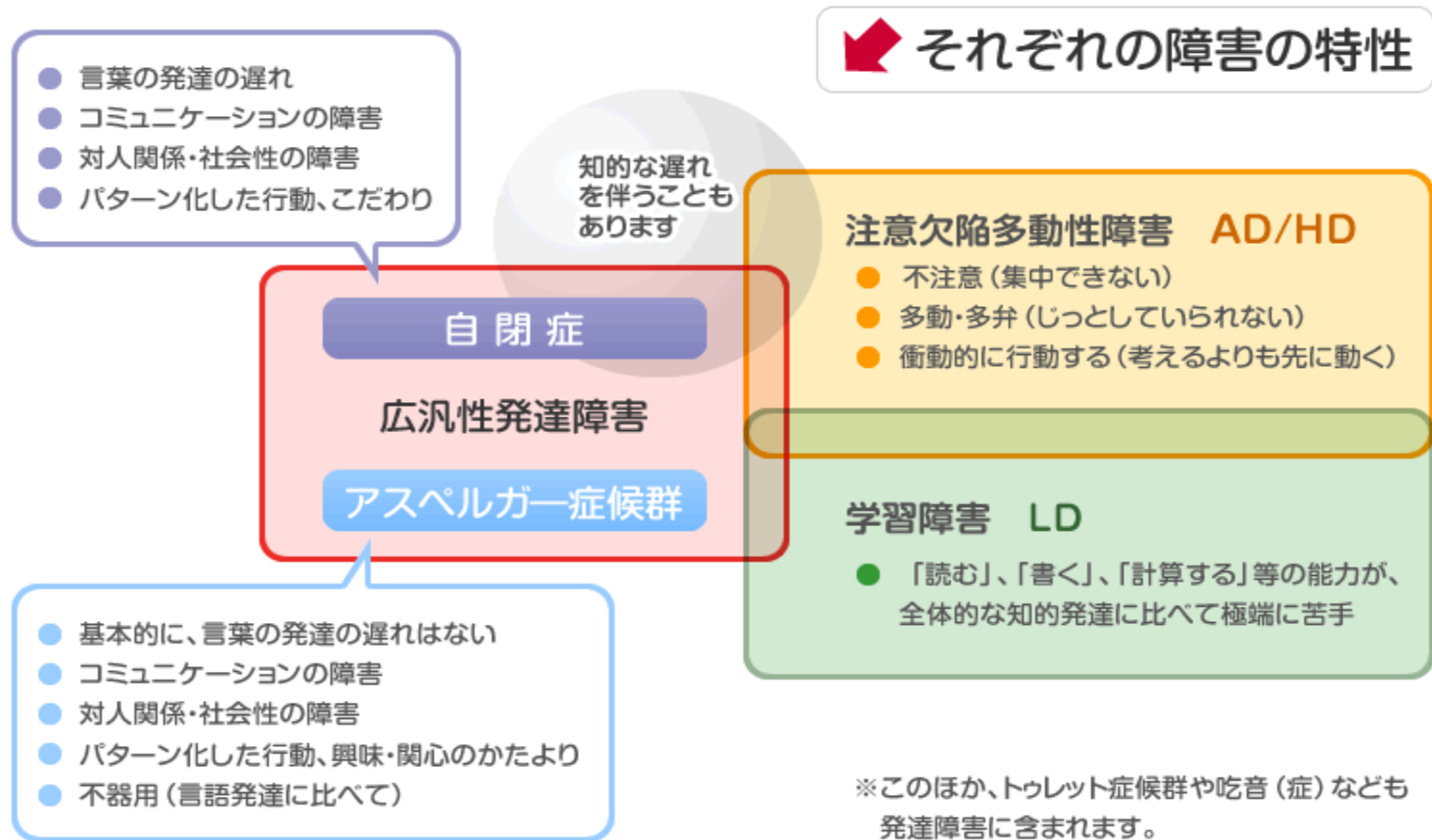
ICD-10の発達障害

- 発症は乳幼児期あるいは小児期であること
 - 中枢神経系の生物学的な成熟に深く関係していること
 - 精神障害の多くを特徴づけている緩解や再発がみられない、固定した経過であること
-
- 発達障害は、脳の機能的な障害からおこり、成育過程における子どもへの養育環境やしつけなどが原因ではない
 - 発達期から、日常生活、社会生活、学業、就業などに支障がみられる

発達障害とは

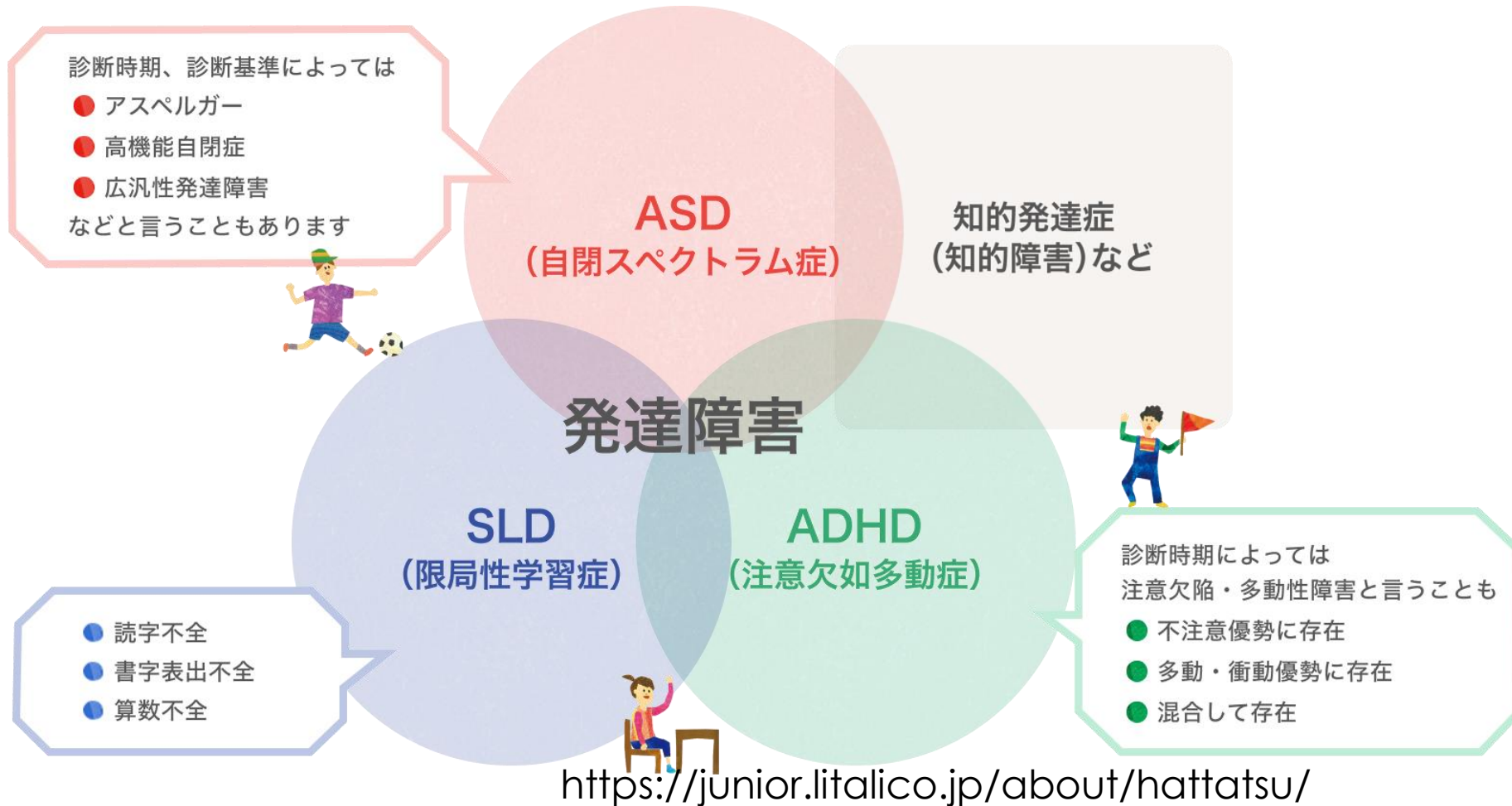
政府広報オンライン：発達障害って、なんだろう？

<https://www.gov-online.go.jp/featured/201104/#secondSection>



発達障害は、複数の障害が重なって現われることもあるし、障害の程度や年齢（発達段階）、生活環境などによっても症状は違ってくる。発達障害は多様である

ASDとADHDの特徴



ASD: 「言葉の発達の遅れ」「コミュニケーションの障害」「対人関係・社会性の障害」「パターン化した行動、こだわり」

ADHD: 「集中できない (不注意)」「じっとしてられない (多動・多弁)」「考えるよりも先に動く (衝動的な行動)」

<https://www.gov-online.go.jp/featured/201104/#secondSection>

ASD（自閉症スペクトラム）の特徴

（司馬理英子：女性の発達障害 困りごとにどう向き合うか。講談社，2023）

社会的想像力の障害

- 他人の感情や考え方を想像できない
- 予想外のことに臨機応変な対応ができない
- 何かにこだわりすぎて非常識に見えることがある

社会性の障害

- 友だちや周囲の人と上手にかかわることができない
- 相手との適切な距離感がわからず近づきすぎる
- 困ったときでも自分から助けを求めることができない

コミュニケーションの障害

- 相手との相互的なやり取りができず一方的になりがち
- 言葉のキャッチボールができない
- 冗談やうそを見抜けず、真に受ける
- 表情も乏しく、喜怒哀楽を表さないため、とっつきにくい印象

ASDに共通している傾向・特性 対人関係への影響が大きい

- 人とかかわるのが苦手
- 相手の気持ちがわかりにくく、察することができない
- コミュニケーションが苦手
- 自分の規則やルールに強いこだわりがある
- 予定変更や急な変化に対応できない
- **感覚（聴覚、視覚、皮膚の感覚など）が過敏**

ADHD（注意欠如・多動症）の特徴

（司馬理英子：女性の発達障害 困りごとにどう向き合うか。講談社，2023）

衝動性

- 思いついたらすぐに行動しないと気が済まない
- やるべきことをやらず、目先の楽しみを優先する
- 結果を考えずに行動する

不注意

- うっかりやぼんやりが多い傾向
- 気が散りやすい
- ひとつのことをやり続けることが難しい
- 自分の好きなことには過度に集中する

多動性

- もぞもぞ、そわそわが多い傾向
- じっとしていられず、常に手足をもぞもぞさせたり、動かしたりしている
- 落ち着きがなく、退屈な状態に耐えられない

ADHDの特性は生活全般に影響する

(司馬理英子：女性の発達障害 困りごとにどう向き合うか。講談社，2023)

- ルーティンが苦手な人は、掃除、洗濯、料理などの家事がうまくまわらない
- 近所づきあいに支障をきたしやすい
- 家庭内で家事や子育てなどで家族に感情をぶつけてしまい、もめる原因になる
- 衝動買いをしてしまい、経済的な問題も起こる

女性のADHDの特徴

(榊原洋一・高山恵子：女性のADHDサポートブック. ナツメ社, 2019)

- 女性ホルモンの変化によって症状や体調に大きな影響があらわれる
- 結婚・出産・育児などにおいてうまくできないことで自信喪失や無力感をもってしまう
- 過剰適応することで、大きなストレスをかかえてしまう
- 人間関係のつまずきが多い
- 自尊感情が低い
- 不安やうつ症状が全面に出やすい

女性のADHDの特性が出産や子育てなどのライフイベントに及ぼす影響が大きい

女性のADHDの特徴

過剰適応でカバーされてしまう

(榊原洋一・高山恵子：女性のADHDサポートブック、ナツメ社、2019)

- ADHDのある女性はADHDのある男性に比べ自分の立場や場の空気を読み、自分の行動特性の問題をカバーしようとする「適応能力の高さ」がある
- 過剰な努力をして適応しているため、社会にうまく溶け込んでいるように見える

- ◆無理をしてストレスをため、合併症（適応障害、うつ病、不安障害など）のリスクを高めてしまう
- ◆ADHDであることにいつまでも気づかず、サポートが受けられない

ADHD, ASDと区別が難しい障害・病気

(司馬理英子：女性の発達障害 困りごとにどう向き合うか. 講談社, 2023)

限局性学習症

全般的な知的水準は標準であるが「読字障害」「書字障害」「算数障害」などがある。事務や計算の処理能力が低く、仕事の遅れやミスにつながりやすい、空間認知が苦手な片付けがうまくできないなどはADHDとまぎらわしい

うつ病・うつ状態

これまでできていたことができなくなり、仕事や家事がとどこおる。発達障害の人は二次障害としてうつになる場合もある

不安症

仕事や家事、健康状態などあらゆることに不安を感じ、落ち着きがなく、緊張している。判断力の低下もみられる。ASDで不安が強い人がいるので紛らわしい

双極性障害

気分が落ち込むうつ状態と異常に気分が高揚する躁状態が交互に現れる。躁状態のときの落ち着きのなさや気分の変わりやすさ、活動性や大胆な行動などの症状がADHDに似ている

境界性パーソナリティ障害

感情が不安定で、自分や他者への評価が変化し、感情や思考のコントロールがしにくい状態。見捨てられる不安から相手に執着するなどがADHDに似ている。ASDの人の他者への接し方と似ている場合もある。

軽度知的発達症

知的発達が実年齢より低い状態。言葉や抽象的な事柄の理解に遅れがあるが身の回りのことは一人でもできる。発達障害と合併していることもある

発達障害のある人の割合

- 学習面または行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒数の割合：小・中学校 2022年調査 8.8%（2014年 6.5%）、高校 2.2%（通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果. 2022）
 - 医師から発達障害と診断された者の数：**2022年 872千人**（2011年 318千人、2016年 418千人）（生活のしづらさなどに関する調査結果の概要. 2022）
 - 成人期発達障害者の相談件数：936件（2006年）→9848件（2016年）（志賀ら：成人期発達障害者の生活実態に関する調査. 国立のぞみの園紀要, 11巻, 2018）
- 学齢期における学習・行動面で困難がある子どもの数は2014年調査の6.5%から2022年調査では8.8%へと増加している
 - 医師から発達障害と診断された人は2016年の418千人から2022年の872千人にと6年間で倍増している
 - しかし、**成人期発達障害の実数は不明である**

成人期発達障害者の実態

(志賀ら：成人期発達障害者の生活実態に関する調査。
国立のぞみの園紀要, 11巻, 2018)

方法：全国の発達障害者支援センターに来所した人に関する調査（記入者：相談担当者）
時期：2017年10月～12月

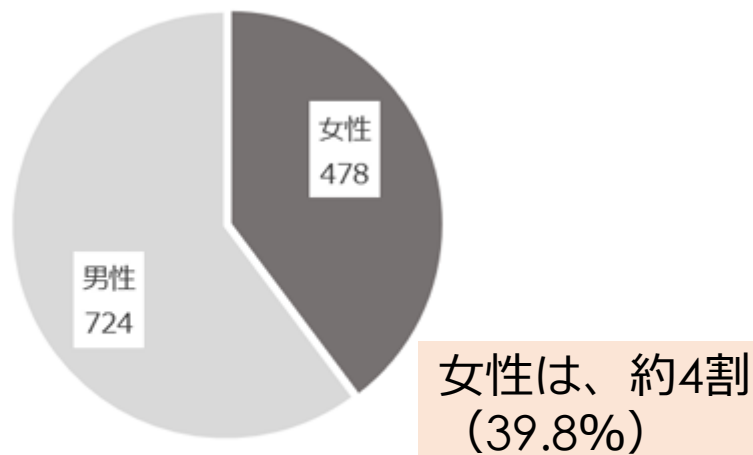


図 1. 相談者の性別

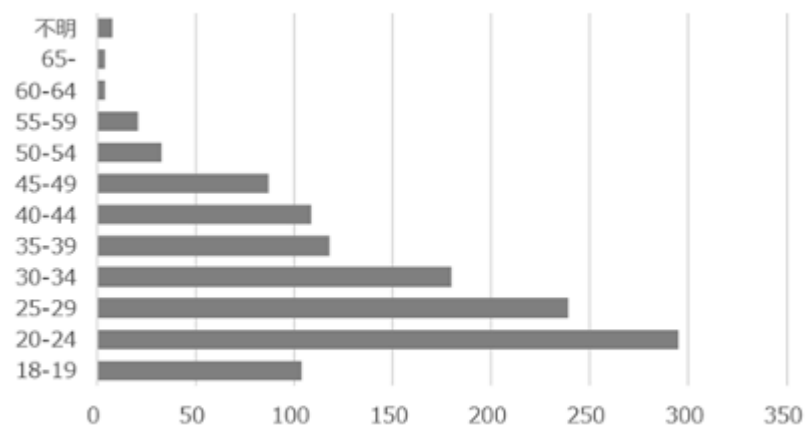


図 2. 相談者の年齢分布

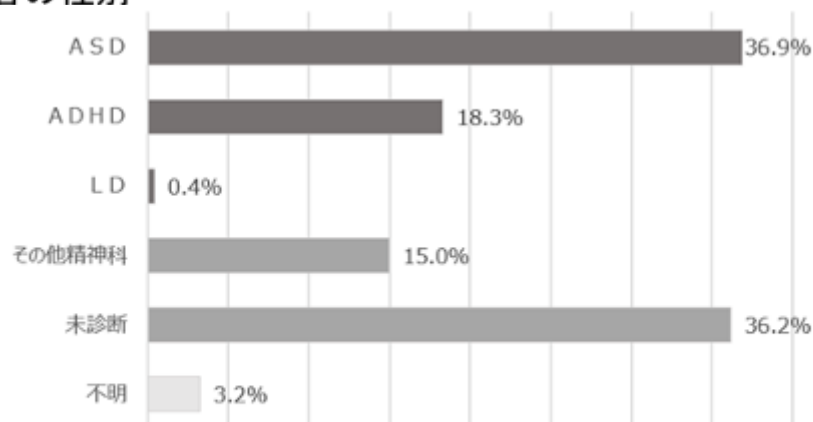


図 4. 相談者の診断状況(複数回答)

発達障害に関する診断は
ASDが443人(36.9%)、
ADHDが221人(18.3%)、
LDが5人(0.4%)、
未診断が435人(36.2%)

ASDにおける妊娠・出産後の母親の子育てにおける困り感

岩田千亜紀：高機能自閉症スペクトラム障害（ASD）圏の母親の子育てにおける困難とニーズ. 社会福祉学, 56 (3) ,2015

- **妊娠・出産の不安を抱える/安心して出産する**
- **自身の特性に悩む**：深刻な感覚過敏、苦手な家事
- **子どもとの関係に悩む**：よく泣き、眠らない、手がかかる、育てにくい、他の子どもたちとは違う
- **夫との関係に悩む**：夫からの無理解に悩む、モラルハラスメントに悩む、DVに悩む
- **家族以外の周囲との関係に悩む**：自分の親との関係に苦しむ、ママ友との関係に苦勞する
- **思うようにいかない子育て**：子どもの予想外の行動に対して手が出てしまった
- **ひどい抑うつや育児ノイローゼ等**になる

結婚・出産前からの未解決な外傷 体験を抱えた母への支援

岩田千亜紀：高機能自閉症スペクトラム障害（ASD）圏の母親の子育てにおける困難とニーズ. 社会福祉学, 56 (3) ,2015

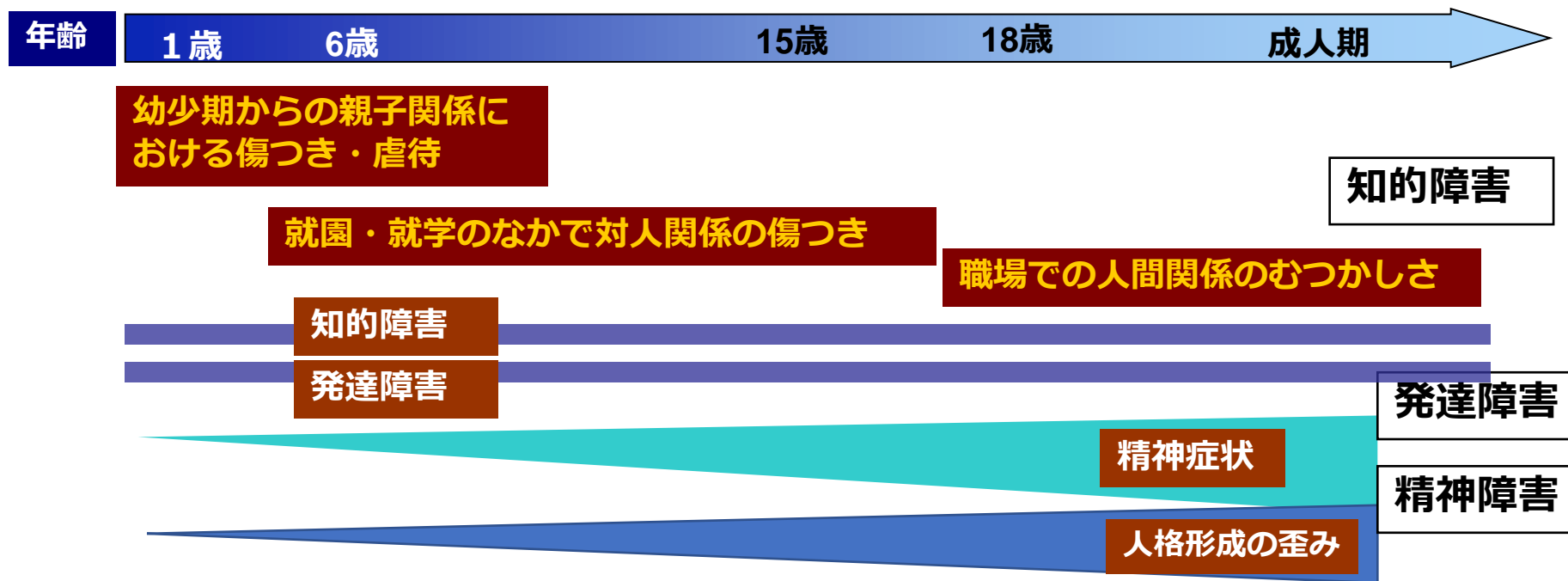
子どもの頃から親の理解不足や虐待

学校でのいじめなど多くの外傷体験を経験している

精神疾患の発症

発達障害 + 幼少期からの外傷体験が 生きづらさにつながっていく

0歳



- 背景に被虐待歴、子どもの時代の傷つきが重なり育児へのリスクにつながっていく
- 発達障害による幼少期からの外傷体験を理解した支援がもとめられる

支援 1：発達障害を持つ人の体験を理解する

子ども虐待の発生機序（ヘンリー・ケンプ）と共通する部分がある

（小林美智子：母子保健活動と子ども虐待. 世界の児童と母性,90, 13-19）

親は子ども時代に愛された経験が乏しい

今の生活に多大なストレスが累積する

心理社会的に孤立して支援者がいない

きょうだいのなかでは親の意に沿わない子どもが対象となる

子ども時代の経験を理解するために活用できるツール

- **ジェノグラム** ; 3世代まで把握し、家族の構造を理解する
- **エコマップ** ; 家族のなかの関係性、家族と関係機関との関係性を捉えることができる

子どものころの様子を詳しく聞く

- 人と上手に付き合うことができていたか
- 親や教師からたびたび注意されたり、叱られたりしていなかったか
- 友だちとけんかになったりしていなかったか

(司馬, 2023)

ジェノグラム・エコマップ等から 発達障害の特徴を把握する

- 家族メンバーとの関係性
- 新たな関係の形成と別れ（ライフスタイルの移行期）：これらの変化がもたらす他の出来事への影響
- 援助機関とのかかわり

人々の行動と相互作用に関する疑問点が浮かび上がる
疑問点から様々な仮説を組み立てることが可能になる
さらに必要な情報がわかり、発達障害のアセスメントを方向付ける

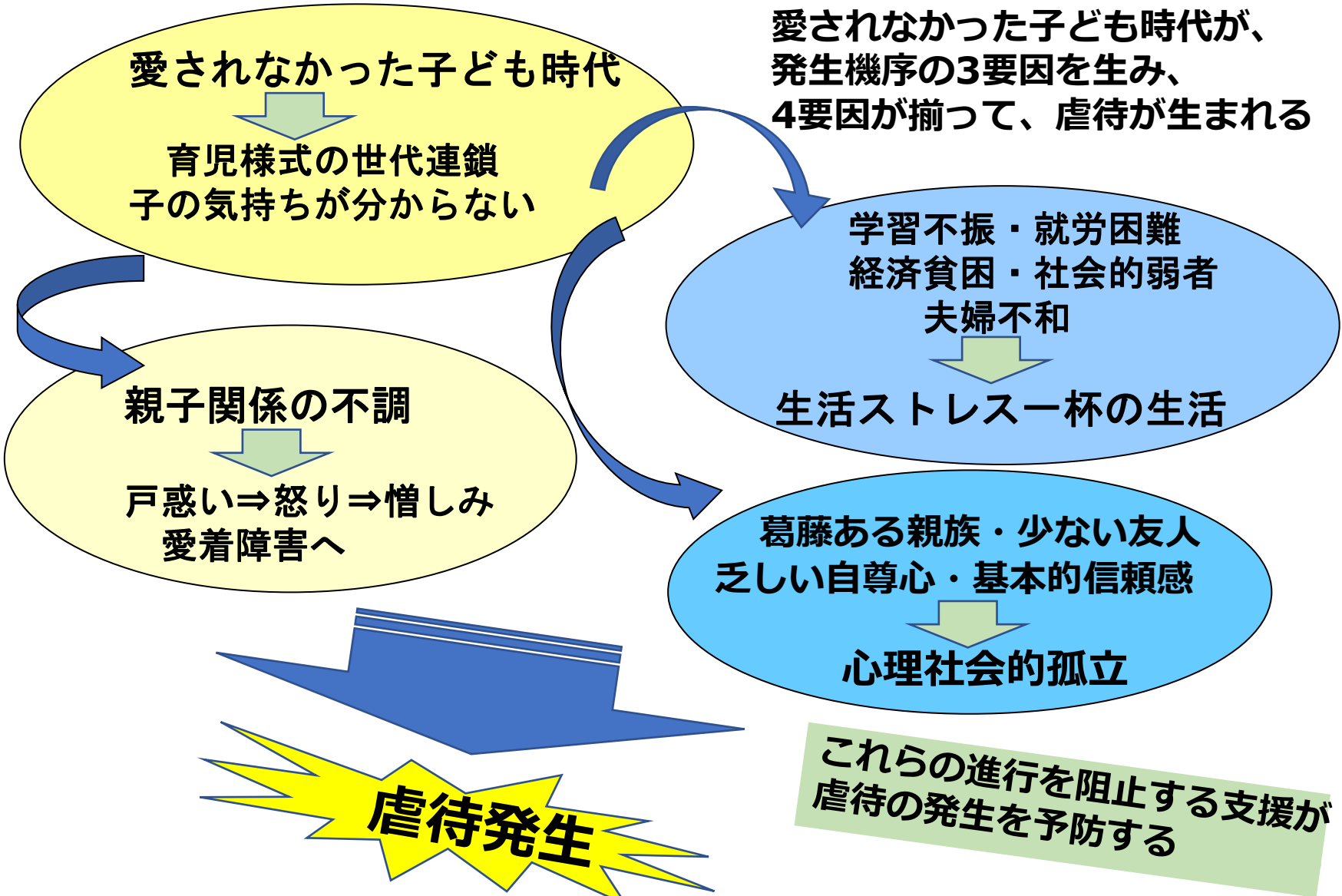
（レイダー＆ダンカン：子どもが虐待で死ぬとき．明石書店 から引用）

子ども時代の経験から**愛された経験が 乏しい**ことを理解し、その**心理的影響** を理解する

- 「人生早期に親身になって養育されなかったことの後遺症として**低い自己評価**しかもてなかった子どもは、自分の最も身近にいる**大人**でさえも**信頼**できなくなってしまう。
- このような**他者への信頼関係の欠如**はその後の人生においても消えることはなく、本人に意識されないままに、成人してからも**他の大人への不信感**という形で生き残る。
- その結果**対人関係のあらゆる場面に深刻な影響**が及ぶことになる。」（スティーラー）
- 発達初期の略奪体験や虐待およびネグレクトの経験は**成人後の彼らの行動や関係性に重大な影響を与える**（レーダー&ダンカン）

虐待の発生

(小林美智子：これからの子ども虐待予防活動にエールを贈る。
かながわ子ども虐待研究会。2023より引用)



これまでの親の経験から支援方略を考える

(小林美智子：子ども虐待の「支援」を考える。子どもの虹情報研修センター紀要13.1-12, 2015)

- ◆ 親自身が子どもの時代に愛された経験が乏しい
- ◆ 自尊心や基本的信頼感が乏しい
- ◆ 愛着障害やPTSDがある
- ◆ 支援をもとめない

- 自分自身が体験する機会がなかった共感性のある子どもへの対応を学習する機会が必要

妊婦・親自身が共感性のある対応を支援者や社会から受け取る



親は子どもに対して共感性のある支援が可能になる

援助関係をつくるとは

(スティーラー：虐待された子ども.明石書店)

通常の支援方法では伝わらない



- 親に変化をもたらすのは、知識や技法の指導よりも**自分自身のために一生懸命になってくれる人の存在そのものである**
- 危機に対処する際の**協力的で思いやりのある援助が不可欠**。彼らが抱えている根本的なニーズを自覚し、そのニーズを軽視しないような援助
- **時間であり、注目であり、なによりも彼らに人間として計り知れない価値があることを認めること**

支援を考える：発生機序から考える支援方略

(大阪府保健師虐待予防研修資料から上野作成)

親が困っている事の相談にのる

社会的孤立の解消（援助関係をつくる）



生活ストレス軽減



子どもの症状の改善



親の育児改善や治療

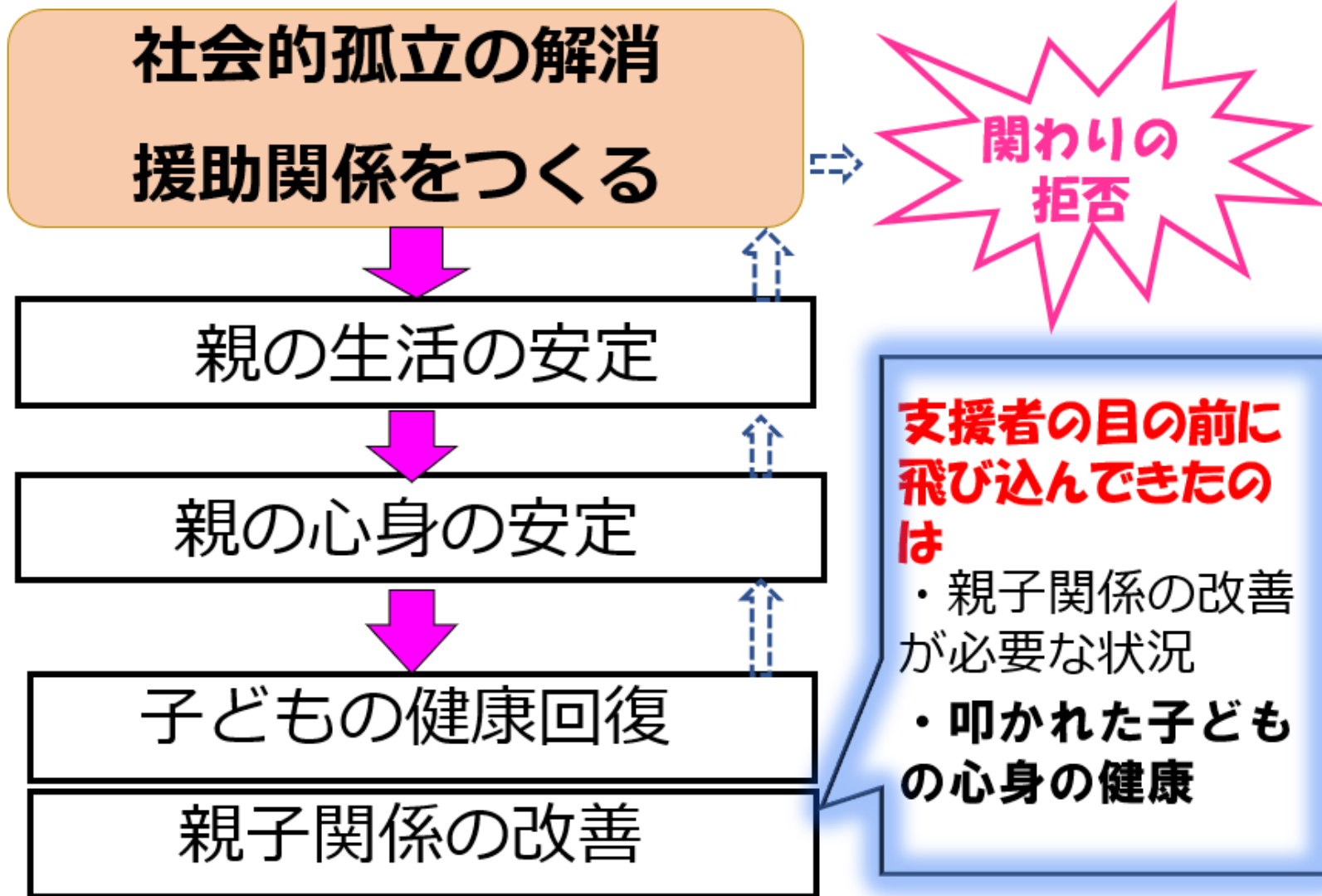
生活ストレス軽減は
具体的に出来る事
（生活の困りごと、
経済的問題など）を
中心に行う

保健師が、効果を感じた支援

岩田千亜紀：発達障害圏の母親への支援の実態及び課題.
自閉症スペクトラム研究, 17 (2) ,2020

- 母親の**生活のつまずきを理解し、それを円滑にさせる介入**を心がけた
- 家族や周囲のものに母親の理解者や援助者を見つけ、その協力を得た
- **母親の特性を把握し、行動パターンを見つけ出した**
- 母親とのコミュニケーションの円滑な取り方がわかった
- 母親に受診を勧め、**自身の障害の理解と受容**をさせる
- 当事者会に繋げる

かかわりが難しい親への支援の難しさ



支援2：親・家族の強み（長所）に焦点をあてる

インス・キム・バーガー/桐田ら訳：解決のための面接技法。金剛出版,2004

新しいパラダイム 解決志向アプローチ

- 親の個人的な見方や生き方を尊重し、親をエンパワーメントする
- 親を主役にし、親の長所と持っている技術をもとに解決を構築する
- 親と話し合い、協力的な相互作用の輪を作り出す

問題解決パラダイム

- 問題について詳細なアセスメントから始まる
- 特定の問題について訓練を受けた専門家がアセスメントを行い、次の課題となる解決の計画を立てる
- 親は専門家の指導により解決を実行する

強みを引き出し焦点をあてる

強み：長所に焦点

- 支援者は親と同等の関係となる（パートナーシップ）
- 親の要望やニーズに焦点をおく
- 支援者は親の能力を導き出す
- 支援者は、親、家族が自分の目標に到達するのを支援する

通常の支援方法

- 支援者が専門的助言を行う(保健指導)
- 何が問題かに焦点を置く
- 支援者が問題の原因を見つけ出す
- 親は問題をどのように「直す」べきか指導される

支援のポイント1

親・子ども・家族のトータルケアとして考える

白木孝二：私が期待する児童虐待へのアプローチ 援助を可能にするための援助。
金剛出版, 2003

- 子どもの虐待は**養育者の生活の困難さ**と密接に絡み合っている
- 生活の困難さとは、**経済的困窮、地域社会での孤立や阻害、養育者自身の抱えた身体的精神的疾患（発達障害等）**
- 日々の**生活上での現実的な困難、問題、障害があることを意識して関わる**
- **経済、文化、社会的要因を視野に入れて、状況を捉え、援助計画を考えることが必要**

ASDにおける妊娠・出産後の母親の子育てにおける困り感

岩田千亜紀：高機能自閉症スペクトラム障害（ASD）圏の母親の子育てにおける困難とニーズ. 社会福祉学, 56 (3) ,2015

発達障害圏の母親からの相談内容と具体的な内容

子どものこと	<ul style="list-style-type: none">・虐待・子どもの発達の問題や発達障害・子どもへのかかわり方がわからない・就園・就学（保育園や学校）でのトラブル・子どもがかわいく見えない	<ul style="list-style-type: none">・養育がうまくできない
母親自身のこと	<ul style="list-style-type: none">・家事や育児に支障がある・イライラが抑えられない・相談できる人がいなく孤独・利用できるサービスを知りたい・自分の気持ちがかうまく伝えられない・実母との関係が悪い	<ul style="list-style-type: none">・体調不良・医療機関について・ママ友トラブル
夫のこと	<ul style="list-style-type: none">・夫とけんかをしてしまう・夫の会話が成り立たない・夫婦関係不調	<ul style="list-style-type: none">・夫から怒られる、DV・夫が協力してくれない
経済面・就労面	<ul style="list-style-type: none">・働けない、働いてもすぐやめてしまう・お金がなく生活に困っている	

支援のポイント2

援助関係を意識しながら生活ストレスへの支援が重要

信頼関係構築に着目した支援内容（抜粋）

日常生活の役に立つケアを提供する

困りごとを手伝う
育児や家事を一緒にする
母子の心身の健康を気遣う
ニーズに応じた情報を提供する
成長発達を踏まえて育児方法を伝える

自尊心を高める

母親としてのプライドを尊重する
強みを見出し肯定する
過去のよい体験を再認識してもらう
変化を捉え、フィードバックする
感情を言語化して代弁する
あなたが大事と伝える

（佐藤・上野・大川：児童虐待予防においてかかわりが難しい母親との信頼関係構築に着目した熟練保健師の支援。日本公衆衛生看護学会誌,10(1),2021より）

援助の困難さ

援助を受けたくても受けられない現実的な問題を
推測し、理解する

- どんな治療や援助をどこに求めればいいのかの知識・情報がない
- 援助や治療に対する経済的負担に対応できない
- 治療を受けることでの生活や家族の負担への保証がない
- 治療に行くためにかかる時間を確保できない
- 治療・援助機関が、時間的・物理的に利用、アクセス可能でない
- 意思疎通などコミュニケーションの問題がある

援助者の役割

白木孝二：私が期待する児童虐待へのアプローチ
援助を可能にするための援助。金剛出版，2003

- 援助を受けられるように、援助を提供できるよう
に関与する
- 援助を受けることの負担を軽減する手立てを講ず
る
- 援助者が、家族のニーズに応じた援助を提供でき
るようになる

全てのクライアントは、**自分たちの問題を解決する
方法について一番よく知っていて、そのために必要
な強さと資源をもっている**

支援 3 : 発達障害を理解した支援

- 母親が子育てに関わる独自の問題を多数抱えていることを理解する
- 障害特性への保健師及び母親本人の気付き：母親の特性に気づき、コミュニケーションの改善や事態の改善につなげる
- 家族とのかかわり：家族のなかで母親以外のキーパーソンを見つけ、パートナーシップを形成する
- 成人の発達障害に関する研修の機会をもつ

- **小学校入学までの発達障害の早期発見・早期予防**
- **妊娠期初期から発達障害の可能性を視野に入れた支援を考える**

母親の困り感の変容プロセスに着目した支援

岩田千亜紀：高機能自閉症スペクトラム障害（ASD）圏の母親の子育てにおける困難とニーズ. 社会福祉学, 56 (3) ,2015

- **自分の特性への理解が進むような支援**
- **母親自身や子どもへのソーシャルサポート：**
具体的な支援を提供する
- **夫からの理解の度合い：**身近な家族である夫を含めて家族が発達障害の特性を理解できるように支援する

ご清聴いただきありがとうございます
ございました

